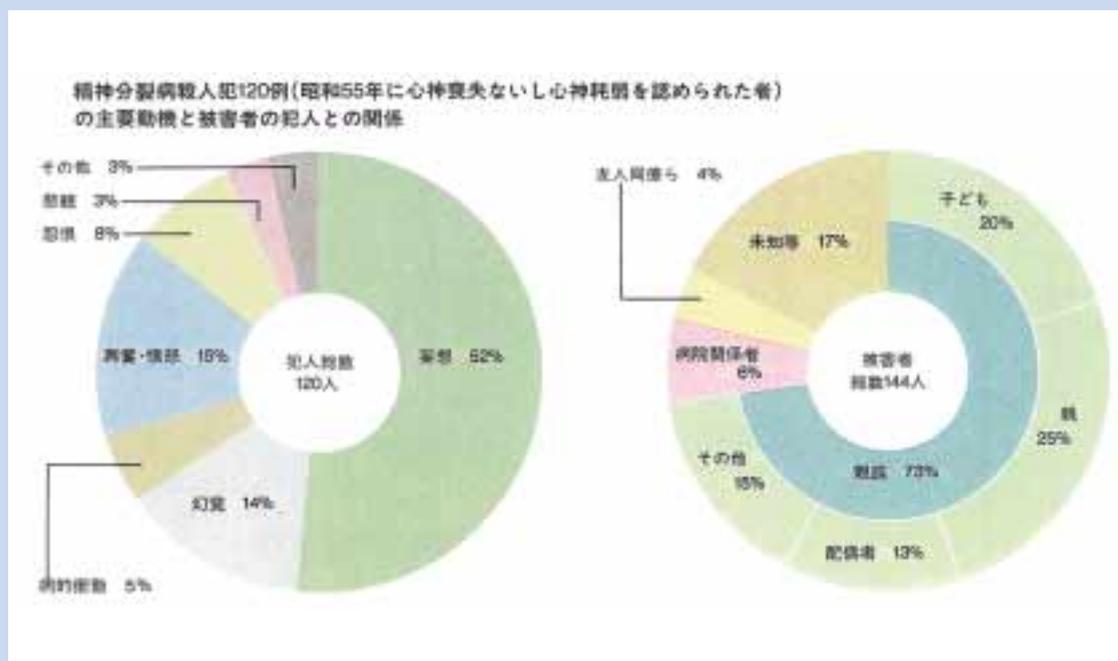


GFP/LacZ 発現マウスの胚組織片を用いた微量移植術による哺乳類頭部オーガナイザー領域の同定

原腸陥入開始直後の胚(左上)の前腸内胚葉(AVE), 外胚葉(EPI), 原腸陥入初期オーガナイザー(EGO)(左下)を, 頭部突起形成開始前の宿主胚に微量移植する(中央下, 緑)。24時間培養後には移植細胞が頭部から尾部まで分布し, その近接した上皮は神経管, すなわち二次軸の形成が誘導される(右, 青)。(関連記事本文17ページ)

大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野 太田正人助手



(関連記事本文18ページ)

難治疾患研究所 社会医学研究部門 山上 皓教授

# 目次

□部局長等就任挨拶	3
□教授就任挨拶	4
□新教育2001年委員会報告	5
□歯科衛生士学校創立50年記念行事	7
□国際交流	9
□News	10
「人工臓器研究開発施設」竣工 留学生センター発足 江藤歯学部長チュラロンコン大学より名誉博士号を授与される	
□教養部ってこんなところ 「緑萌ゆる『不思議の国』から」	14
□シリーズ人間科学教育	15
□マイ・リサーチ 太田正人助手，山上 皓教授	17
□海外レポート 中島正俊助手，高久田和夫助教授	21
□外国人留学生だより ベロニカ ガルスィア・パラスィオス	24
□学生部だより	25
□健康コラム	35

## 表紙の言葉

江戸川の矢切の渡<sup>やぎりわた</sup>りで、東側（松戸側）の棧橋に舟が着くところです。伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の舞台として有名ですが、歌謡曲の方が知られていますね。今でも大切な庶民の足として、棧橋に旗が揺れていれば渡し舟がでます。舟上から眺める江戸川の景色は、とてもさわやか。ここから川に沿って下ると、国府台キャンパスです。

江戸川に浮かびて吾と蜻蛉<sup>とんぼ</sup>かな

写真・文 日置俊次（教養部助教授）

## 留学生センター長

教授 板橋 作美  
(教養部 社会学)

本学には、留学生への日本語教育とその生活指導に当たる者として、日本語・日本事情担当教官が教養部所属として2名いましたが、他大学とくらべて留学生の絶対数の少ない本学では、人員を増やしてセンター化することは無理だとされているなか、鈴木学長、佐藤医学部長、江藤歯学部長、そして事務方の大変なご努力によって、本年度から2名の増員(計4名)があり、留学生センターが設置されることとなりました。あつくお礼申し上げます。

また、鈴木学長をはじめとして両学部、両研究所、教養部のご配慮、ご理解によって、留学生センター教官全員の教養部教授会への正式な所属が認められました。他大学には、センター教官が複数の学部に分かれて所属したり、正式な教授会メンバーとして扱われていない例があり、そのような大学ではセンター教官の足場が弱く、結局、センターが十分に機能していないことがままあると聞いています。その点、本学

では、基本的な条件が整えられたと考えます。このことについても、お礼申し上げます。

このような異例のセンター設置は、本センターに対する学内外の大きな期待と注目を意味していると考えます。私たちセンター教職員は、それを十分に自覚して、ご期待にこたえることのできるセンターを作らなければならないと考えています。とくに、医学・歯学系の大学としては初めての留学生センターですので、他の医歯系大学、医学部、歯学部からの要望にもこたえられるような医歯学系留学生教育カリキュラム、テキストの開発が重要課題の一つだと考えています。

最初のセンター長を命じられました私の責務は、理想の留学生センターを目指して、センターの骨格を作り、運営を軌道に乗せることです。微力ながら全力を尽くす覚悟ですが、皆様のご助力がなければ、それを果たすことはできません。よろしく願いいたします。



医学部保健衛生学科検査技術学専攻

教授 しば 紀代子



この度2000年6月1日付けをもって医学部保健衛生学科検査技術学専攻分析検査学の教授に就任いたしました。私は1967年に本大学検査部生化学の助手として採用されました。当時坂岸良克先生（前埼玉医科大学教授）が生化学検査室の講師をしており、実際の現場で生きた臨床化学を教えていただきました。中尾真先生（東京医科歯科大学名誉教授）に研究のご指導をいただき、1976年医学博士を授与され、同年講師になりました。1992年3月まで検査部に在職していましたが、その間当大学医学部附属臨床検査技師学校の非常勤講師を兼任しておりました。1990年に保健衛生学科が創設され、保健衛生学科の助教授に内定いたしました。2年間併任いたし、正式に1992年から専任となり、分析検査学のうち一般検査学の講義を担当いたして

おります。本学科は検査技術学として国立大学で初めての4年制大学でしたので、教官が一丸となって、特徴ある学科にするべく努力をいたしました。私もその一員として参加させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。又大学院博士課程（前期・後期）が設置されましたが、設置するための膨大な準備過程をも体験させていただきました。保健衛生学科の発展時期に在籍できたことは大変光栄だと思っております。今後も教育、研究そして臨床検査分野の指導者となるべく人材の育成に微力ながら、力を尽くす所存です。

最後にこのような機会を与えて下さった先生方に感謝いたしますとともに、今後とも宜しくご教授のほどを御願いたします。



## 医学・歯学における 卒前臨床実習の在り方について



新教育2001年委員会委員長  
委員長 江藤 一 洋

文部省は本年3月10日、医学部においては卒前臨床実習を従来の「見学型」から「実践型（クリニカルクラークシップ）」に改めるために、また歯学部においてはすでに従来から行っている「実践型」卒前臨床実習の質の向上を図るために、医師・歯科医師としての能力や資質をより高める教育カリキュラムの導入を目指して、「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（資料1）を発足させ、

- ①臨床実習におけるクリニカルクラークシップの、医学部においては導入、歯学部においては質の向上、に伴う諸問題の検討、
- ②臨床実習前の学生の能力評価を行うために、4年次から5年次への進級認定試験導入の検討（併せて臨床実習段階で適性を欠く学生に進路変更を促すなど、厳格な評価についても検討）、
- ③クリニカルクラークシップと上記進級認定試験に対応したコアカリキュラムの確立について検討（併せて基礎的な履修科目を絞り込み、進路に応じた専門科目の選択を増やすことについても検討）、

以上の項目について、平成13年3月を目途に提言がされる予定になっています。

さらに本調査研究協力者会議の下には、すでに、「効果的な臨床実習の導入・実施の在り方に関する調査研究班」（主査；福井次矢京都大学大学院医学研究科教授）が平成10年より発足し、また医学においては「医学における教育プログラム研究・開発事業委員会ワーキンググ

ループ」（委員長；佐藤達夫医学部長）（資料2）が、歯学においては「歯学教育プログラム調査研究班」（委員長；江藤）（資料3）が設けられて、上記項目について具体的な検討が行われています。

今、なぜ「卒前臨床実習」か、といえ、一つには、医療過誤や医療関係の不祥事などが相次ぐ中、社会的には「医師・歯科医師としての職業意識や倫理観が欠如している」、「患者とのコミュニケーション能力がない」など、最近の医師・歯科医師養成教育の問題点が指摘されている。二つには、医学・歯学教育における卒前臨床実習のレベルが欧米と日本ではあまりに違いすぎる中で、「今後、我が国の高等教育機関が、世界に開かれた高等教育機関としてその役割を十分に果たしていくためには、特に、高等教育制度の国際的な整合性を図り、教育研究のグローバル化を推進するとともに国際競争力を高めることが重要であり、これを通じて質の高い高等教育を提供し、世界のあらゆる分野で活躍し得る能力を持った人材養成に貢献していくことが求められる『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について』大学審議会の審議の概要（平成12年6月）より」すなわち、卒前臨床実習においても国際的な基準と比較して何ら遜色のないものが求められているといえます。

新教育2001年委員会としては、日本の医学・歯学教育にきわめて大きな影響を与えらると思われる上記調査研究協力者会議の検討状況を逐次

踏まえて、予想される提言の方向を見据えた上で、さらにこれらを十分に考慮にいれて本学独自の特色を備えた教育プログラムを策定していくこととなります。全学の皆様のご協力、ご支援の程、宜しくお願い致します。

## 資料1

## 医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議

座長	高久史磨	自治医科大学長
副座長	鈴木章夫	東京医科歯科大学長
	赤津晴子	パロアルトVAメディカルセンター スタンフォード大学老年病学研究所研究員
	大山喬史	東京医科歯科大学歯学部附属病院長
	岡島英五郎	奈良県立医科大学長
	柿田章	北里大学病院長
	神津忠彦	東京女子医科大学医学部教授
	佐川寛典	大阪歯科大学長
	佐治重豊	岐阜大学医学部附属病院長
	佐藤達夫	東京医科歯科大学医学部長
	猿田享男	慶應義塾大学医学部長
	谷口克	千葉大学医学部長
	西野瑞穂	徳島大学歯学部教授
	福井次矢	京都大学大学院医学研究科教授
	藤枝知子	東京女子医科大学看護学部長
	矢崎義雄	国立国際医療センター病院長

## 資料2

## 医学における教育プログラム研究・開発事業委員会ワーキンググループ

東京医科歯科大学	医学部長
佐藤達夫	(人間科学教育カリキュラム)
東京医科歯科大学	医学部 教授
麻生武志	(人間科学教育カリキュラム)
東京医科歯科大学	教養部 教授
山崎久美子	(人間科学教育カリキュラム)
東京医科歯科大学	教養部 教授
和田勝	(人間科学教育カリキュラム)
千葉大学	医学部 教授
副田康一郎	(生命科学教育カリキュラム)
群馬大学	医学部 教授
鈴木庄亮	(社会医学教育カリキュラム)
横浜市立大学	医学部 助教授
後藤英司	(臨床医学教育カリキュラム)
	内科系

東京慈恵会医科大学	医学部 教授
山崎洋次	(臨床医学教育カリキュラム)
	外科系
慶應義塾大学	医学部 教授
小口芳久	(プライマリーケアカリキュラム)
東京女子医科大学	医学部 教授
神津忠彦	(統合カリキュラム)

## 資料3

## 歯学教育プログラム調査研究班

東京医科歯科大学	歯学部長
江藤一洋	(全体のとりまとめ)
東京医科歯科大学	歯学部附属病院長
大山喬史	( " )
東京医科歯科大学	歯学部 教授
高野吉郎	(進級認定システムとコアカリキュラム)
九州歯科大学	歯学部 教授
小園凱夫	( " )
日本大学	歯学部 教授
大塚吉兵衛	( " )
大阪歯科大学	教授
大浦清	( " )
東京医科歯科大学	教養部 教授
服部淳彦	( " )
東京医科歯科大学	教養部 助教授
中村千賀子	( " )
東京医科歯科大学	歯学部 教授
須田英明	(臨床実習の在り方について)
大阪大学	歯学部 教授
野首孝祠	( " )
東京歯科大学	歯学部 教授
高江洲義矩	( " )
日本歯科大学	新潟歯学部 教授
束理十三雄	( " )
滋賀医科大学	医学部 教授
吉武一貞	( " )

## 歯科衛生士学校 創立50年記念行事を終えて



歯学部附属歯科衛生士学校  
教務主任 遠藤 圭子

歯科衛生士は昭和23年の法制定に基づき、歯科疾患の予防を行う職種として誕生しました。

これを受けて、本学に歯科衛生士学校を作ることは、十分に準備する時間的余裕がないほど急な話だったことや、歯科衛生士養成所指定規則の公布を待っての設立ということで、檜垣麟三学校長、金田正男事務長たちのご苦労はいかばかりだったかと思われます。文部省や厚生省に再三足を運び、修業年限・定員・授業時間数・入学試験等に関する整備を行って学生を募集し、昭和26年5月に第1回生13名が入学し、翌年4月には8名が卒業しましたが、当時は歯科衛生士が社会に認知された職業ではなかったことから、就職はなかなか困難だったようです。



黒崎紀正学校長 式辞

しかし、昭和30年、歯科衛生士法が改正され、歯科における診療補助が業務に加えられたことにより、就職先も歯科診療所へと拡大しました。

本校では基礎科目の補強と臨床実習内容を充

実するため、昭和33年に教育年限を延長して2年制の各種学校となりました。さらに昭和50年学校教育法の改正によって専修学校となり、平成6年には専門士（医療専門課程）の称号が授与されるようになるなど、着実に発展を遂げてきました。平成元年の歯科衛生士法の改正で、歯科保健指導が歯科衛生士の業務として、さらに加えられたことにより、教育内容を一部変更しました。

卒業生は1000名を越えたところですが、それぞれが歯科衛生士として活躍し、また指導的な役割を担っていることは本校の大きな誇りと



幸田シャーマン氏による記念講演

思っています。

西暦2000年、節目の年にちょうど創立50年を迎えることから記念行事を行うことになりました。大学が記念式典、また歯科衛生士学校同窓会（お茶の水さつき会）が記念講演、祝賀会および記念誌の作成を分担して準備しました。5月28日当日は前日までの大雨も上がり、関係者

一同胸をなでおろしました。

記念式典は5号館講堂にて挙行されました。高野猛総務課長の司会のもと、黒崎紀正学校長の式辞と鈴木章夫学長のご挨拶ではじまりました。次いで、文部省高等教育局布村幸彦医学教育課長，厚生省健康政策局瀧口徹歯科保健課長，日本歯科衛生士会中西ヨシエ会長，全国歯科衛生士教育協議会浅井康宏会長からのご祝辞をいただきました。それぞれのお立場から，少子・高齢社会における歯科衛生士のあり方，国立の歯科衛生士養成機関としての課題など，これから本校が果たすべき役割についてご助言もあり，出席者みな感銘を受けました。最後に永年にわたって本校の教育にご尽力をいただいた先生方に学校長から感謝状を贈呈し，滞りなく記念式典を終了致しました。

これに先立って，ジャーナリスト幸田シャーマン氏による記念講演「地球環境は未来への贈

り物」が行われました。リーダーシップ論を含め，よりよい環境づくりのために，一人一人がなすべきことについて熱く，語られました。

午後からは池袋サンシャインシティプリンスホテルに場所を移して，祝賀会が行われました。村上真瑛子同窓会長の挨拶に続き，歴代の学校長を代表して小野博志先生，江藤一洋歯学部長，歯科同窓会竇田博副会長から，ご祝辞をいただきました。

恩師や同窓生との歓談，同窓生によるジャズの披露やくじ引きなど，趣向をこらした進行で大いに盛り上がり，和気あいあいの2時間を過ごすことができました。

こうして創立50年を祝うのに相応しい記念行事すべてが終了致しました。

多くの方々のご協力に，この場を借りて，厚くお礼申し上げます。



祝賀会風景



## 本学歯学部・大連医科大学歯学部（中国）間の 学術交流協定締結される

歯学研究科3年（歯科保存学第三）  
牛 衛 東

東京医科歯科大学歯学部と大連医科大学歯学部との学術交流協定締結のため、平成12年6月8日から10日まで、本学の江藤一洋歯学部長と須田英明教授（前歯学部国際交流委員会委員長）が中国大連市を訪れました。

大連市は歴史的に日本との交流が盛んな地域であり、現在も日系企業が多数存在しています。大連医科大学は1947年に設立され、現在は12のカレッジ、4つの附属病院、33の関連病院等からなる医歯学系大学で、東京医科歯科大学と良く似た大学です。1986年に現在の歯学部長である朱恩新先生が最初に東京医科歯科大学歯学部口腔病理学講座（当時）に留学して以来、現在までに大連医科大学歯学部からは筆者を含めて5人が本学歯学部で留学しています。そのうち3人は博士の学位を得たのち、大連医科大学歯学部で現在勤務しており、それぞれの分野で後進の指導等に活躍しています。

この学術交流協定を締結するに至った端緒は1995年に前述の朱恩新先生が大連医科大学歯学部長に就任したことによります。1997年8月に大連医科大学の姜潮学長が東京医科歯科大学を訪れた際、両大学歯学部間の学術交流協定を結びたい旨の朱先生の意向が江藤一洋歯学部長に伝えられたことから、両大学歯学部内で協議が進められ、その総意のもと、本年6月に東京医科歯科大学歯学部・大連医科大学歯学部間の学術交流協定が締結される運びとなりました。

協定調印式には東京医科歯科大学側から前述の江藤歯学部長、須田教授が、また大連医科大学側からは、姜潮学長、朱恩新歯学部長、歯学部核心委員会の先生方が出席し、6月8日に大

連医科大学において盛大に行われました。筆者もこの調印式に出席する荣誉に恵まれました。また、この調印式に先立ち、江藤歯学部長は、姜学長、朱歯学部長と会談し、姜学長から「両学部間の学術交流協定が締結されるのは素晴らしいことです。今後、両大学間での人材交流を益々盛んにする努力を重ね、大学間の協定へと発展させたい。」との強い意向が示されました。また、朱歯学部長からは「東京医科歯科大学歯学部は国際的に有名であり、このような世界一流の歯学部と学術交流協定を締結でき、非常に嬉しく思います。今後の活発な学術交流を期待しております。」という発言がありました。



（前列）左：姜潮学長（大連医科大学） 右：江藤一洋歯学部長（本学）  
（後列）左から、王如助教授（大連医科大学口腔外科）、張燕書記（大連医科大学核心委員会）、朱恩新歯学部長（大連医科大学）、須田英明教授（本学）、馬国武助教授（大連医科大学口腔外科）、筆者

大連医科大学歯学部出身の留学生である私にとっても、この学術交流協定が結ばれたことは大変嬉しいことであり、今後さらに両大学間の交流が盛んになり、双方が益々大きく発展することを祈念しています。

# News

## 「人工臓器研究開発施設」の竣工について

生体材料工学研究所 生体システム分野  
教授 高谷節雄

1999年4月元医用器材研究所を生体材料工学研究所と改組・改名し、その際新設されたシステム研究部門の『生体システム分野（人工臓器）』にこの度念願の人工臓器研究開発施設が竣工した。この施設は、生体材料工学研究所の地下スペースを改造して出来たもので、クラス100レベルの人工臓器作製用クリーンルーム（18.6m<sup>2</sup>）、クリーン度10,000の手洗い用前室（2.0m<sup>2</sup>）と大型動物用清潔手術室（47m<sup>2</sup>）、慢性動物実験室（46m<sup>2</sup>）、モニター・検査室（18m<sup>2</sup>）、更衣室、機械室等で構成されており、人工臓器の作製、清潔環境下での生体への埋め込み、術後管理そして種々の実験ができ、大型動物（子牛、山羊、羊等）を常時3頭まで管理できるようになっている。当面は、当大学附属病院での臨床応用を目標に、体内完全埋め込み式補助及び全置換型人工心臓の実験を子牛で行う予定である。東京医科歯科大学が日本そして世界の人工臓器研究開発のメッカとして発展するよう努力するつもりである。この施設の竣工は、鈴木学長始め、経理部、施設部と研究所事務部のご協力が可能となったもので、竣工記念式典は平成12年5月16日東京医科歯科大学生体材料工学研究所で行われた。

竣工記念式典には、鈴木章夫学長、佐藤達夫医学部長、渡橋正博事務局長始め関係事務官、医学部及び研究所教官と学外から阿久津哲造テルモ相談役（1957年に世界初の人工心臓研究を米国クリーブランドクリニックで行う）、能勢之彦ペーラー医科大学教授（米国テキサス州ヒューストン市）、文部省学術国際局学術情報課柴崎孝課長補佐、通商産業省機械情報産業局医療・福祉機器産業室荒木由季子室長等の来賓を始め、都内及び地方の医学・工学系大学教授・助教授、そして日本を代表する人工臓器研究者約80名が参加した。

記念式典に引き続き、当研究所ゼミ室で懇親会が催され、研究所若谷秀雄事務長の司会で、井上昌次郎研究所長の挨拶、鈴木章夫学長の祝辞と続き、来賓を代表して阿久津哲造博士から祝辞をいただいた後に、佐藤達夫医学部長の発声で人工臓器研究開発の進展に乾杯し、盛大に施設竣工を祝った。人工臓器研究開発施設竣工式は、東京医科歯科大学生体材料工学研究所を学外の関係諸氏に知ってい



清潔手術室



動物管理室

## News

ただくと同時に、学内における研究所  
教官・事務官、医学部教官・事務官の  
交流を増す意味でも効果的であったと  
思われる。

写真は、清潔手術室と動物管理室  
(前ページ)と懇親会の様子(右)を  
示したものである。



懇親会

## 東京医科歯科大学留学生センター発足

留学生センター長

教授 板橋作美

平成12年4月1日より本学に国立大学としては32番目、医歯学系大学としては初の留学生センターが発足し、駿河台臨床研究棟(1-2階)にて業務が始まった。

本学では平成12年5月1日現在世界30数ヶ国から191名の外国人留学生が学んでいるが、日本語学習や修学・生活上の悩みに関する相談へのニーズも高く、また事務手続き等も複雑・多様化しているため、留学生センターにおいて留学生に係わる様々な業務を一元化させることは長年の懸案事項であった。留学生センターは今後、大学全体の留学生に対する窓口として、留学生に対する日本語教育及び留学生の教育・研究あるいは社会生活への適応上の悩みに関する相談・指導を実施するなどのきめ細かな教育指導援助体制の確立を図るとともに、学内の留学情報の集約、発信機能の充実を図っていく。

留学生センターの運営はセンター協議会及び運営委員会の2つの委員会によって行われる。初代センター長には教養部長(板橋作美)が併任で就任し、専任教官として教授(山下早代子)と助教授(増田光司)が就任しているが、現在新たに専任教官2名を選考中である。

留学生センターの主な業務内容は以下の通りである。

- 1) 日本語・日本事情教育：大学入学後の基礎的日本語能力を有する留学生に対し、その能力の一層の向上を図るための日本語教育を実施するとともに、日本語能力が不十分である留学生に対して課外補講を実施する。また、日本についての理解を深めさせるため、日本文化、社会等の諸事情についての教育の実施も合わせて行う。本学では既に昭和63年より学部外国人留学生に対する日本語・

# News

日本事情教育が教養部で、また湯島キャンパスでは大学院生や専攻生を対象に日本語補講が行われてきており、留学生センター発足後もこれらを継続して行う。

- 2) 大学院入学前予備教育：本学に進学する留学生及び他の大学に配置される医歯学系の大学院レベルの国費留学生（定員15名）に対し、大学院入学後の教育研究指導を受けるのに必要な予備教育を6ヶ月間（年間2期）実施する。平成12年10月より実施が始まる。
- 3) 留学生指導：留学生特有の教育，研究上あるいは社会生活への適応上の悩みに関する相談・指導を実施する。
- 4) 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言を行う。
- 5) 地域の留学生支援団体（地方自治体，公益法人等）への対応を行う。これには宿舎の確保や奨学金の依頼等も含まれる。
- 6) 学内の留学情報の集約・発信を行う。インターネットも視野に入れた情報網の構築が予定されている。

駿河台臨床研究棟内の留学生センターには2つの教室，マルチメディア室，留学生のための談話室，センター長室，教官室，留学生課の事務室が設置され，秋からの本格的運用に向け諸準備が進められている。冒頭で述べたように，本学留学生センターは医歯学系大学としては初の留学生センターであることから，関係方面から全国の医歯学系の留学生のためのセンターとしての役割が期待されている。運営にあたり皆様のご理解とご支援をお願いする次第である。

## チュラロンコン大学より 名誉博士の称号を授与されて

歯学部長 江 藤 一 洋

去る7月13日にチュラロンコン大学（タイ）より名誉博士の称号を授与されました。

これは，1991年の学術協定調印以来，1993年から1995年までの大学間交流研究「重度顎顔面欠損症の研究」（文部省），1996年より2003年まで続く拠点大学交流（学術振興会）等によって，タイ国の歯学教育研究の発展に尽力したというのが授与の理由です。

事前に当大学でガウンを仕立てよう，また7月10日に式典のリハーサルを行うので出席をするようにとの通知を受けて，多少面食らう思いでした。

7月13日当日，国王の名代としてシリントーン王女の列席のもとに，午後4時半より式典が始まりました。2,000名収容の大講堂最前列に9名の名誉博士号授与者（外国人は2名）が並び，その後学部関係者，さらに後方には，1,900名あまりの卒業生（初日は16学部のうちの半数の学部）が全員各学部カラーのガウンをまとっての着席です。チュラロンコン大学の卒業式は3日間を通して行われ，最初の2日間に学部学生約4,000名に対してシリントーン王女が直接卒業証書を手渡します。その冒頭に名誉博士号の授与がありました。私は9名の授与者の中で最初であり，席を立てて壇上に登り，

## News



Dr.Suonta Chareonvit (当教室大学院修了, 現在チュラロンコン大学講師)と貴賓室にて

博士号を授与されてまた席に戻るまで7回の礼を行う儀式で、いささが緊張しました。毎年卒業式と併せて行われる授与式はテレビで放映され、またインターネットで公表されています。王室を中心としたタイ国民の在り様がよくわかりました。

6時半に式典は終了し、7時から貴賓室でシリントーン王女を中心に授与者の写真撮影があり、続いてお祝いの乾杯がありました。さらに8時からは大学に近いホテルでチュラロンコン大学歯学部スタッフ全員出席しての祝宴がありました。何気なくやってきたことがこれほど喜ばれ、祝われるとは、と感慨の思いでした。

翌7月14日は午前中歯学部の卒業生が全員ガウンをまとい、女子学生は一人一人プロの写真家を頼み、校庭で集合写真やグループ毎の写真撮影があり、私もガウンを着用してこれに参加しました。開放的なタイ気質を反映してまことに華やかな模様でした。昼にはまた近くのホテルの一室で約30名の本学歯学部留学生が集まり、私の名誉博士号にあわせて同窓会を結成し、お祝いをしてくれました。

最後に、今度いただいた名誉博士号が今後の日本とタイの歯学の架け橋の一助になればまことに幸いでありますと共に、この10年間に日本とタイの歯学の発展のために尽力された関係者の皆様にこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



## 「緑萌ゆる『不思議の国』から」

教養部 哲学  
助教授 田中智彦



国府台に来てからまだ半年もたっていませんが、このキャンパスがすっかり気に入ってしまいました。旧友たちに「国府台ってどんなところ？」と聞かれるたびに、「虫や鳥がたくさんいて、花や緑がたくさんあって、おまけに古墳まであるところ！」と答えます。ただ残念なことに、「嬉しくて自慢している」とわかってもらえるのはまれなようです。生きもの大好き・歴史大好き少年だった私にとっては、ひねもすいても飽きないところ、ちょっとしたワンダーランドなのですが……。

さて4月、哲学の講義はスフィンクスもどきのこんな「なぞなぞ」から始まりました。「朝昼晩いつも見ているのに、一度も見たことがないものといえは何？」もちろん、まちがえた学生を取って食おうというわけではありません。取って食おうとしているのはむしろ、だれの思考にも見出される憑きモノ、「当たり前」という名の憑きモノの方です。いつも見ているのに一度も見たことがないもの 答えは「自分の顔」でした。ひとはだれしも、「自分の顔」を「鏡に映る像」としてしか見ることができませぬ。「像」は「像」として、「自分の顔」へと限りなく近づきながら、しかし最後まで、その手前にとどまり続けます。ところが、私にはけっして乗り越えられないその距離を、他者はいとも簡単に踏み越え、「私」を「私」として認知します。「私」が「私」であることの証とも言うべき「自分の顔」が、当の「私」には隠され、「私」ではない他者にだけ開かれている とすれば、「私」が「私」であることは、「私」が思うほど「当たり前」ではないかもしれません。「私」が「私」であることの

根拠は、「私」のなかにはないかもしれません。ならばその「根拠」は そのようなものがあるとして いったいどこにあるのでしょうか？

こうして始まった哲学の講義も、はや十数回を数えました。「私」を問い直すことは、「私」をそれまでとは違った眼で いわば複眼的に 眺めることへとつながってゆきます。そのことはひるがえって、「私」の眼に映る「他者」の相貌を、そして「世界」の相貌をも変え、「私」の生に新たな彩りを与えることへとつながってゆきます。これは新しく、かつ古い試みです。なぜならその試みは、古の神々が「人間」に課した問い 汝自身ヲ知レ をいま、ここで、あらためて引き受けようとする試みだからです。でもそれにしても、いまなぜわざわざ哲学を？ あるいはそう問われるかもしれません。私はこう答えたいと思います。すなわち、liberal education とは「自由人 (free man) にふさわしい学芸<sup>アーツ</sup>もしくは学問<sup>サイエンス</sup>」だと言われますが、そこにおいて真の「自由人」とは、「おのれを知る」がゆえに「他者」を、そして「世界」を、つねに新しい光のもとで眺められる者のことだと考えるからです。したがって、liberal education としての哲学とは、やがて「専門人」となってゆく学生のなかに「自由人」の種子を蒔くことだと、そうも言えるでしょう。その種子はどんな芽を出し、どんな花を咲かせ、どんな実を結ぶのでしょうか やっぱり国府台は、ワンダーランドだと思うのです。

最後に、私の大好きなサン＝テグジュペリのことばを掲げさせてください。彼は『人間の犬

地』を、次のようなことばで締めくくりました。  
精神の風が粘土のうえを吹いてこそ、はじめて人間はつくられる。

明日、国府台にはどんな風が吹いているでしょうか。

## 自分を知るきっかけ 感想カード

教養部 人間科学教育担当  
助教授 中村千賀子



人間科学教育では、この平成12年7月17日（月）～8月11日（金）までの4週間にわたって、夏の学外体験学習を実施した。その学習中の学生の様子は、残念ながら本稿の締め切り日の都合で本号では報告できない。そこで、体験学習の準備期間である1学期に学生によって作られた感想カードを資料としたプロダクト（作品）の一部をここで紹介する。

教養部で開講されている人間科学教育の重要なねらいの一つは、「自分自身を理解するきっかけ」を得ることである。そのためにも、体験学習部門の「人間科学教育基礎a」では、学生は体験学習の準備のために受ける1学期の講義に対して、毎回クラス終了時にB6サイズの「感想カード」を記入して提出する。このカードに、講義を聞いて自分がどのようなことを感じたか、考えたか、あるいは望んだかをそのまま言葉につづるよう、学生にあらかじめ伝えてある。カード提出は出席の証拠として氏名だけを記入し提出してもよいので、学生のサバイバル（単位取得）行動として、代返に相当する代書も散見される場合もある。しかし、それも学生の仲間作りのけなげな（？）努力の成果として、教師側は黙認することも少なくはない。ただし、かような行為が他人から信頼されるに足る人間としてふさわしい行為かについて考えるべき、とは伝える。

感想カードの目的は、人間が様々な人に出会い、様々な考えを聞けば、自分自身の中にいるいろいろな考えや、感情、希望、いわゆる想いというものが沸き起こってくることを意識することである。また、それを言葉に表現することで自分自身を知るきっかけを得ること、さらに、他の人との関係の中で、必要なときにはその想いを相手にわかってもらえるように伝えることができるようになることである。

そこで、夏休みの体験学習直前のクラスにおいて、1学期中に学生が書き溜めた感想カードを一旦返却し、自らが綴った感想を読み返し、その全カードを読んだ感想と、感想カードを書かされたことへの考えや感想を作文にして提出することになっている。その一部として2名の学生の感想や考えをここに紹介し、人間科学教育のねらいを読者の方々に理解していただく資料としてお示しする。

ちなみに、今年度の講師は、医学部・岩井教授、歯学部・谷口教授、武蔵野赤十字病院臨床研修部長・日下講師、歯科保健医療国際協力会議幹事・田中講師、翔の会「空と海」高齢者デイケアセンター施設長・和田講師、アカデミー・アンド・アセスメント・エイド代表取締役・嵯峨崎講師、中之沢美術館館長・三谷講師、かもめ工房所長・星野講師、バット博士記念ホーム園長・石田講師、三楽病院精神神経科部

長・中島講師であった。

### 1. 自分の感想カードを読んで考え、感じたこと

自己省察という行動は、現状に甘んじずにいるために常に必要であるが、時に独善的になり、考えなかったほうが良い結論に達することすらある。いわゆる下手の考え休むに似たり、という事である。このような悪循環を避ける方法の一つとして、他者の話し、考えに耳を傾けるということがある。

その意味において、いろいろな人の話を聞き、よくも悪くも短時間のうちに感想カードをまとめ、提出することを私は評価するし、また、その中で不器用に考えている行動は意味があったと考える。

あらためて、カードを読むと、よくいろいろなことを思ったものだ后感心する。また、(講師の話に)動揺しながらもなんとか文章をまとめようとしたときのことが思い出され、懐かしくもある。いずれにせよ、ただ本を読み、知識、情報として聞いたことを受け取るより、(この講義から)多くのものを得たと思う。(講師の日頃の)実践の重みというものをあらためて実感した時間を過ごした自分であった。

1時間の話しの中で毎回様々な内容を聞いてきた。ただ話しを聞くということとはなかなか難しいことで、講師がどのようなことを言っていたのか思い出すことができないことがよくある。感想カードを読んでみて、自分はこの講義でもっとも印象深かった内容を書いていることがわかり、あらためて自分がこのようなことに印象を受けたのだと感じた。そのとき、その時の講義がどのようなものだったかを思い出せた。

### 2. 感想カードを書き続けたことへの感想

事物・経験には書きとめておきたいと強く感じさせるものと、そうでないものがある。人間

科学教育基礎 a の講義はどちらかといえば後者である。これは印象が薄かったからではなく、強すぎたからである。收拾がつかなくなっている自己の様態を紙上に残すのはぶざまで、耐えがたかったのである。たとえていうならば、古い日記を見つけて読み、赤面するといったところであろうか。だから、感想カードを一度返すといわれたときは楽しい気分ではなかった。けれども良い点もある。上記のことに重なるが、そのときの強い印象を自分の中に残せたことは有意義であったはずである。どのように、感情をゆすぶられても、おおよそのことは日々印象が薄れていくものである。これを残しておき、振り返る中で、見えてくることがある。たとえば、割合に冷静を保つことができるとよいと思っていた自分がそれほど冷静でいつづけられないことなどである。これらを頭に置き、これから自分をどう改善していくか、考えていこうと思う。

感想を書くという事は、とても難しく感じる。ただ単に、おもしろかったとか、つまらなかったとかだけの感想なら簡単なことなのだろうが、その理由などを考え始めると、急に難しく感じてしまう。

感想カードを書きつづけたことで、自分が感じていることを少しでもうまいこと表現できるようになっていけばよいと感じた。

以上、教養部で学ぶ2名の学生の「感想カードを読んで考え、感じたこと」、「感想を書きつづけたことへの感想」を紹介した。人間科学教育基礎 a でねらう、「自分に気づく、これまでの自分を知る」ためのきっかけを獲得してもらおうべく感想カードを学生に書きつづけさせた。最後に返却された感想カードをためつすがめつじっくりと読み味わった学生の小さな振り返りが、夏の体験学習でさらに広がることを期待したい。

## 哺乳類における頭部形成機構について

第39回米国先天異常学会定例学術集会 (The Teratology Society)  
Young Investigator Travel Award 受賞

大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野

助手 太田正人

昨年、1999年の6月29日から7月5日にかけて米国コロラド州キーストンにて開催された米国先天異常学会定例学術集会において、思いもかけず学会賞を頂き、さらにここに私の研究を紹介する機会を与えていただきました。私の研究テーマは、頭部の初期発生機構に関するものです。

まず最初に、頭部の初期形成機構について簡単にご紹介したいと思います。頭部の形成は、内部細胞塊と呼ばれる‘体’を形成する細胞の塊の一部から原始内胚葉と呼ばれる細胞が分化

などの前方構造物を誘導します。そして、前方化の誘導を終えた臓側内胚葉はさらに前方部へと押しやられて胚体外に移動して胚体外内胚葉となる一方、原腸陥入によって生じた中内胚葉が胚体を覆い、前方部の上皮と相互作用しつつ頭部構造を形成していくと考えられています。

これまで内部細胞塊から原始内胚葉が分化する機構については、マウスのテラトーマ細胞株のひとつF9細胞を用いて解析が行われていました。われわれのグループも、この分化機構における分化関連遺伝子の転写調節機構をF9細胞を用いて解析を行い、転写コアクチベーターp300タンパク質の量的な変化が重要な役割を果たしていることを明らかにし、“Cell Growth & Differentiation”の9巻989 - 997頁(1998)に論文として発表いたしました。そして、このF9細胞の分化誘導系と鶏胚への細胞移植法を組み合わせたアッセイ法を確立し、原始内胚葉が実際に頭部構造の誘導に直接関与するかどうかについて検討を試みました。レチノイン酸によって原始内胚葉へと分化誘導されたF9細胞を鶏卵へ移植したところ、心臓および頭部様構造物が形成されたものの、尾部の形成が阻害されました。この“マウスの細胞の機能を鶏胚を用いてアッセイする”という系が評価され、今回の受賞に結びついたよう

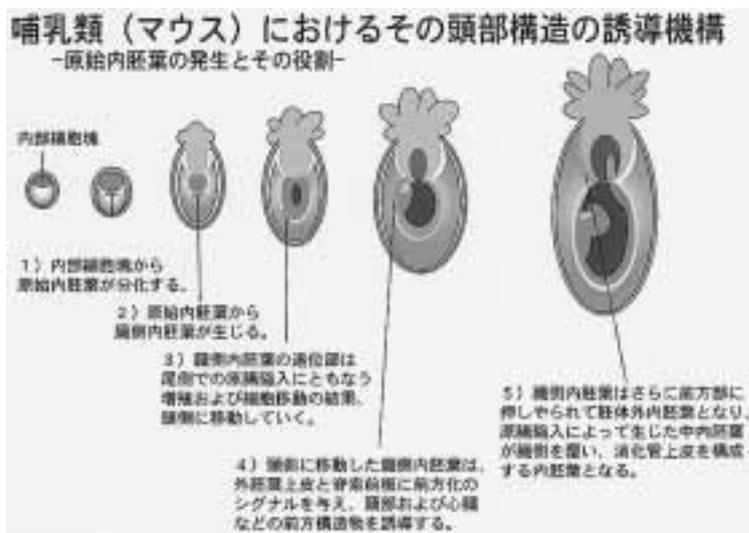


図 - 1

することから始まります(図 - 1)。この原始内胚葉から生じる臓側内胚葉の一部、遠位部が頭側へと移動しつつ、頭部形成に必要な前方化シグナルを外胚葉上皮に与え、頭部および心臓

などの前方構造物を誘導します。そして、前方化の誘導を終えた臓側内胚葉はさらに前方部へと押しやられて胚体外に移動して胚体外内胚葉となる一方、原腸陥入によって生じた中内胚葉が胚体を覆い、前方部の上皮と相互作用しつつ頭部構造を形成していくと考えられています。

す。

しかしながら、このアッセイ法よりも直接的に哺乳類の頭部誘導機構を研究する方法として優れた方法が、オーストラリア Childrens Medical Research Institute (CMRI) の Patrick Tam 博士のグループから昨年暮れに報告され、マウスにおける頭部の誘導に重要な頭部オーガナイザー領域が同定されました。私は、本年4月から7月半ばまでの3カ月あまりをかけて Patrick Tam 博士と Lim 1, Otx 2 などの頭部形成に密接に関わる遺伝子のノックアウトマウスを用いた解析を共同研究を行うこと

により本研究法について学びました。今後は、‘頭部の形成がどのように始まり、やがて顎顔面部の複雑な形態や様々な器官が形成されていくのか’という問題だけでなく、‘これらの機



Patrick Tam 博士（右端）の研究スタッフと CMRI にて（後列左から3番目が筆者）

構を臨床医学に応用するにはどうしたらよいか’ということを考えつつ研究を進めていきたいと考えています。

## 精神障害者による犯罪の原因と予防策についての研究 犯罪被害者の心理と援助のあり方についての研究

第18回日本犯罪学会賞受賞

難治疾患研究所 社会医学研究部門

教授 <sup>やま</sup> <sup>がみ</sup> <sup>あきら</sup>  
山 上 皓

日本犯罪学会賞は、犯罪学の先達である故古畑種基・吉益脩夫両博士を記念して、1983年に創設された。犯罪学における卓越した業績（論文又は著書）をあげた者、毎年1名（原則）に授与される。選考委員長が述べられた選考理由の中で、標記二つの研究業績が主要なものとして評価されていたので、これらについて紹介させていただく。

### 1. 精神障害者による犯罪の原因と予防策についての研究

精神障害者による犯罪は、我が国で生ずる殺人や放火など重大犯罪の1割以上を占めるが、その実態はこれまで明らかにされることがなかった。精神障害犯罪者の大多数が、検察段階で不起訴処分を受け、これに関する記録が公開されないからである。1979年に法務省が刑法改正問題と取り組んだ際、私は研究班の一員とな

マイ・リサーチ



授賞式

り、1980年1年間に全国から法務省に報告された総計320例の精神分裂病者による犯罪の記録を閲覧し、その実態を明らかにした。この調査は、全数調査であり、統計的にも極めて価値の高いものとなった。例えば、精神分裂病による殺人の場合、妄想や幻覚などを直接の動機とするものが三分の二を占めること、殺人衝動によるものも数パーセントを占めること、通り魔的な犯行は1割程度で、被害者の三分の二は患者の親族によって占められることなど、これまで事例報告の中で論じられていた精神分裂病による犯罪の病理が、統計的な根拠を持って明らかにされた。犯行当時にとどの様な治療を受けていたかなど、詳細な分析によって、この種の犯罪の予防策についても提言を行うことができた。その概要は、著書「精神分裂病と犯罪」(金剛出版、1992)にまとめられた。



右より NOVA 全米被害者援助機構代表 マリーン・ヤング氏、V.S 英国被害者援護協会代表 ヘレン・リーブス氏と筆者

この調査がきっかけとなり、法務省の協力を得ていくつかの調査を行ったが、その中で「1980年の精神障害犯罪者全946例の11年間再犯追跡調査」と、「1994年の精神障害犯罪者全1132例の実態調査」は、多くの新たな事実を明らかにした。

2. 犯罪被害者の心理と援助のあり方についての研究

私は、1992年に「犯罪被害者相談室」を研究室の一室を用いて開設したが、そこでの実践と、犯罪被害者の心理に関する調査研究が成果を上げ、我が国社会に被害者支援への機運が高まった。1996年には寄付研究部門「被害行動学(セコム)研究部門」を開設させていただき、本年4月には、犯罪被害者相談室を母体として、社団法人「被害者支援都民センター」が三田に設立された。調査研究としては、1998年に警視庁の全面的な協力を得て実施した、重大事件の被害者を対象とする調査、「事件後早期における犯罪被害者の心理についての調査研究」が、事件後間もない時点での被害者の心理と、その援助方法について、多くの新たな重要な事実を明らかにするものとなった。

精神分裂病者による暴力犯罪の被害者の特徴(1980年)

	被害者総数	性別		加害者との関係							年齢		
		男 性	女 性	未 知	隣 人 知 人	病 院 関 係	親			族		10 歳 未 満	60 歳 以 上
							子	親	配 偶	同 胞	他		
殺人	144	71	73	13	18	9	27	35	17	4	19	27	33
傷害	127	82	45	59	38	4	0	8	1	3	3	10	13

## 平成12年（1月～6月）学会賞等受賞者

広報委員会

所 属	職 名	氏 名	賞 の 名 称
医歯学総合研究科 国際環境寄生虫学分野	教 授	藤 田 紘一郎	日本文化振興会社会文化功労賞及び国際文化荣誉賞
医歯学総合研究科 高次機能薬理学分野	講 師	佐 藤 容 子	日本生理学会奨励賞
医歯学総合研究科 生体応答調節学分野	教 授	宮 坂 信 之	ノバルティス・リウマチ賞
医学部附属病院 第三内科	助教授	磯 部 光 章	ベストレクチャー賞（臨床部門）（信州大学）
医歯学総合研究科 分子腫瘍医学分野	助 手	秋 山 好 光	AACR-ITO-EN Young Investigator Scholar Award for 91th AACR Meeting
医学系研究科 内科学第一	大学院生	坂 下 千瑞子	日本血液学会奨励賞
医学系研究科 整形外科	大学院生	川 端 茂 徳	日本脊椎外科学会優秀学術展示賞
医学部附属病院 神経内科	助 手	石 川 欽 也	日本内科学会奨励賞
医歯学総合研究科 歯髓生物学分野	助教授	小 林 千 尋	井上春成賞
医歯学総合研究科 歯髓生物学分野	助 手	海老原 新	Best foster Presentation at the 20th Annual Meeting of the American Society for Laser Medicine and Surgery
医歯学総合研究科 歯周病学分野	助 手	野 口 和 行	第2回東京医科歯科大学歯科同窓会研究者奨励最優秀論文賞
〃	〃	〃	日本歯科保存学会奨励賞
〃	〃	木 下 淳 博	Tri-Service Dental Society of Japan 優秀賞
歯学部附属病院 維持系診療科	医 員	鈴 木 規 元	日本歯科保存学会奨励賞
歯学部附属病院 回復系診療科	〃	今 井 英 樹	日本顎関節学会総会 学術展示優秀賞
歯学部附属病院 回復系診療科	〃	佐 藤 豊	日本口蓋裂学会 学術奨励賞
歯学部附属病院 育成系診療科	〃	檜 山 成 寿	IADR Travel Award
教養部（文学）	助教授	日 置 俊 次	朝日歌壇賞
難治疾患研究所 社会医学研究部門（疫学）	教 授	田 中 平 三	日本衛生学会賞
難治疾患研究所 神経疾患研究部門 （分子神経科学）	助教授	浜 崎 浩 子	守田科学研究奨励賞
難治疾患研究所 遺伝疾患研究部門 （分子遺伝）	〃	吉 田 雅 幸	第12回国際動脈硬化学会若手研究発表優秀賞

## Augusta 滞在記

大学院医歯学総合研究科 口腔制御学分野

助手 中島正俊

1999年10月13日より12月11日までの2ヶ月間、文部省在外研究員として米国ジョージア州オーガスタにあるジョージア医科大学歯学部にて研究活動を行う機会に恵まれました。当地は、私にとって、すでに1996年に2ヶ月、97年に4ヶ月、98年に2ヶ月滞りし研究活動を行った、比較的慣れ親しんだ場所です。オーガスタはアトランタの東約200キロのところにある南部の田舎町で、飛行機（フライト便によってはプロペラ機）で約40分ほどのところにあります。飛行場は非常に小さく（アトランタ行きとノースカロライナ州シャーロット行きしかない）、日本に帰国（アメリカ出国）する場合でも、出発時刻の10分前に飛行場に到着してもなんとかが大丈夫です。しかしながら、日本に帰国する場合利用する早朝の便は、天候によってすぐ欠航となりアトランタからの東京行き（一日一便）



左 Prof.DH Pashley, 右筆者。Prof.Pashley が持っているのは Hollenback Memorial Prize 受賞記念の盾

に乗り継げないことがあるので、2, 3日前よりテレビの天気予報を見る回数が増え、なんとなく落ち着かない気分になります。もともとは綿花の集積地として栄えた町でしたが、現在ではゴルフのマスターズトーナメントが行われる

ところとして一年に一度、世界の注目を集める町となりました。マスターズトーナメントの行われる4月の第1週は、ホテルの宿泊費だけでなく、ガソリン等の値段も上がり、普段は静かな田舎町も騒がしくなります。観戦チケットは一般に売られているわけではなく、パトロン（オーガスタナショナルゴルフクラブの会員）に対し、前もって必要枚数が配布（4日間通し券のみ、80ドル）されています。したがって、一日だけ観戦する場合、朝ブローカー？からチケットを受け取り、夕方返さなければなりません。当日は“ I need a ticket. ”というプラカー



Prof.Pashley を囲んで。左は九州歯科大学の庄野先生、右筆者。後ろの二人の女性は research assistant。研究室にいるのは秘書を除いてこれで全員

ドをぶら下げた人が多数出現し、また日本の旅行社が観戦ツアーを企画していますが、一日あたり10万円くらい払って、手に入れているようです。

私がお世話になったジョージア医科大学歯学部 Pashley 教授は、象牙質の物質透過性に関する研究をはじめ、被着体（象牙質）から見たレジンの象牙質接着性の評価において世界の第一人者であります。本学とも関係が深く、私が所

属しております，う蝕制御学分野の田上順次教授，現在北海道大学教授の佐野英彦先生が留学されていました。また，本学生体材料工学研究所所有機材料分野の中林宣男教授と共著で，“Hybridization of Dental Hard Tissue”という本を書かれています。田上，佐野両教授が留学された後も，優秀な日本人研究者が留学された関係で，それほど優秀でない私が話す，下手な英語でのディスカッションも根気よく聞いてもらえました。Pashley 教授の研究室は，驚くほど人が少なく，技官（research assistant）の女性がふたりと秘書の女性がひとりいるだけです。

アメリカでは各研究者（教授または助教授）が独立して，専門的な仕事（研究およびそのグラントの獲得）を行っており，日本のように非常に多岐にわたる仕事をその都度みんなで分担しようというシステムとの違いに驚かされました。

2ヶ月という短い期間でしたが，得るものは非常に大きかったと思います。最後に今回，文部省在外研究員として留学の機会を与えていただきました，田上教授，江藤歯学部長並びに関係者の皆様，また出張中の業務を負担していただきました教室員の皆様に深く感謝いたします。

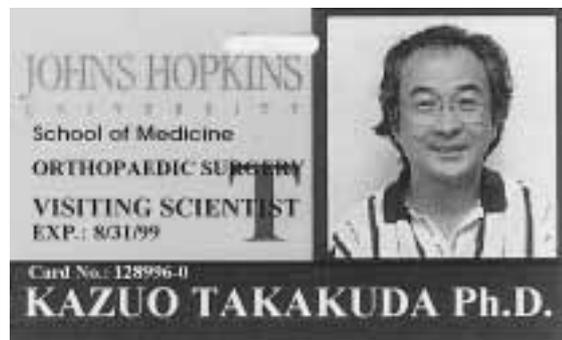
## ジョンズ・ホプキンス大学 を訪問して

生体材料工学研究所 システム研究部門

助教授 高久田 和 夫

1999年の7月から8月にかけて，文部省在外研究員として米国 Baltimore 市の Johns Hopkins 大学 Orthopaedic 教室の Biomechanics Laboratory を訪問しました。ここは Biomechanics 分野でわが国の研究者ともなじみが深い，E.Y.S.Chao 教授が主催する研究室です。

研究の内容や手法は日本とそう変わりがありません。ただ cadaver 実験や大型の動物実験関係は素晴らしく充実しています。研究分野の選択では，米国と共同研究するか，自分の得意分野に集中するか，どちらかを選ぶしかなく，それが良く分かりました。しかし最も驚いたのは研究室のミーティングです。週に1回，研究室の全員が集まってミーティングが行われますが，そこではグラントなどへのアプリケーションの話と，学会発表に何を出すのかの話だけで，研究内容に関わる話題は一切ありません。仕事としての研究の，始めと終わりの肝要を押さえて



筆者の ID カード。治安が悪いのでセキュリティが厳しく，常に ID カードを首にかけていなくてはならない

いるという考えなのでしょう。さらに人の出入りも激しく，同じフロアの研究室を含めると，わずかな滞在期間の間に4～5人は出て行きました。

このような場所での研究体制がどのようなものなのか，興味深いので紹介しましょう。まず Fulltime の職は Instructor, Assistant Professor, Associate Professor, Professor からなって

## 海外レポート



9年連続全米1位の評価を報じる学内報

います。原則として Instructor は3年間, Assistant Professor は7年間, Associate Professor は6年間の任期で, それを終えると再任審査委員会の審査を受け, 通れば昇進の勧告が所属部局長に通知されます。延長すれば, Instructor は5年間, Assistant Professor は15年間, Associate Professor は10年間の任期になりますが, Associate Professor からは終身契約も可能になっています。Professor は終身契約のみで, 再任審査はありません。しかし, それは何もしなくても居られるという意味ではなく, 実際にはグラントが取れないと, 自分の研究室を維持していきません。グラントから研究費, さらに大学院生はもちろん自分の給料さえも出ています。グラントがとれないと人は減り実験室も減り, 最後には自分の部屋しか残らないそうです。実際には, そこに至る前に他の大学に移って行くとのことですが。

この Johns Hopkins のシステムは, 優れた人を選抜するためのシステムとして作られている

ようです。下位の地位の人にとっては, 一定期間は大学における身分が保証され, 公平な昇進の機会が与えられます。実質的な仕事は, Assistant Professor の人たちが主力となり遂行されるようになっていきます。さらに言えば, 本当に研究をしているのは Fulltime の職についていない外国人研究者のようでもあります。一方, 上位の地位の人には, 各自の実力でグラントを得て自分で組織を作り成果をあげることが要求されています。

さてこのグラントですが, グラントを得ても大学本体に4割ほどが天引きされて, 自分で使えるのは残る6割程度だそうです。天引きが多すぎるように感じますが, これは Johns Hopkins というネームバリューがこれだけあることを意味するのでしょうか。滞在期間の間に, Johns Hopkins 大学病院は9年連続で全米1位に評価されたことが発表され, 写真のように学内報の号外が出るなどして盛り上がっていました。各診療科のそれぞれについてもランキングが発表されています。大学自体が社会的な評価を受けており, その結果が広く公開されているのです。

訪問してみると, 全米1位の大学とは本当に能力のある人だけが生き残れる大学のように感じられましたが, 学内のシステムは, 大学の間で人が自由に移動できるシステムを前提として, オープンかつ合理的に出来ているように思われました。わが国でも大学のエージェンシー化が実施され大競争時代が始まるものと予想されますが, 米国のシステムも個性的な大学を実現していく上で参考になる点が多いと思われました。

## Days of a Mexican student in Japan

歯学研究科（細胞機能制御学分野）

大学院4年 Veronica Garcia Palacios



“Why are we larger than mice?” (Cell 86, : 173-5, 1996 and references therein)...it was perhaps one of the first papers that I read about just after I joined Professor Murota group. At that time, I had great and frustrating experiences. I still remember that my first primary cultures did not succeed for many reasons; bad techniques, contamination etc...but the great aspect of that time was that I was very lucky in being supervised by Dr Yasuki Ishizaki, one of the greatest persons that I have ever met. With his patience and kindness, primary culture become one of my favorite hobbies, more than four years have passed since then. Soon after I arrived to Japan I joined Chiba University for a Japanese language course, the place where I met to others students with the same goal like me ; join Tokyo Medical and Dental University as graduate students. Was then when I started to learn a bit of Japanese, as one of my teachers use to say “Japanese language is a Psychological problem don’t think

too much about that and just use it”...till now my Japanese is poor...Since I came to Japan I have been always asked “Why did you come to Japan if the United States are closer to Mexico?”. At the time when I came to this country I was full of illusions ( the same as now ) and I wanted to have a different experience beyond science. Since then I have been enjoying everything in Japan, the laboratory, Japanese culture food, climate, new friends... all!

During my days in this University I would like to acknowledge to Professor Sei-itsu Murota for his permanent encouragement, and to Dr. Ikuo Morita for his invaluable help and guidance during those years under his supervision. Also thanks to all the people that

in a moment/place distinguished me with their advices and smiles, and I am still trying to understand why we are larger than mice.

Tokyo, Summer 2000



Together with Dr. Morita at the Second Joint Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research and the International Bone and Mineral Society. San Francisco, California, USA.

# 学生部だより

## 目次

受験生のための大学説明会	25
平成13年度入学者選抜	26
平成12年度前期外国人留学生 オリエンテーションの開催	26
妙高高原赤倉寮の冬季利用について	27
課外活動における事故防止	28
交通事故の防止	28
第49回お茶の水祭，開催!!	29
サークル紹介	33

## 受験生のための大学説明会

入学者選抜広報の一環として「受験生のための大学説明会」を、さる8月4日（金）約600名の参加者のもと開催されました。

医学，看護学，検査技術学，歯学を志す高校3年生を対象に，本学の教育理念を示し，また，受験生の進路選択において，本学の教育内容等について十分理解を得られるようにすることを趣旨としたものです。

全体説明会では，初めに鈴木学長から挨拶があり，海野学生部長の「入学者選抜及び学生生活」についての説明後，畔柳助教授（教養部），山下教授（生体材料工学研究所），木村教授（難治疾患研究所）から教養部及び研究所の説明が行われました。

全体説明会終了後，引き続き，一部会場を移動して各学科・専攻別の説明会が開催されました。

- ① 開会挨拶
- ② 学長挨拶
- ③ 大学広報ビデオの放映
- ④ 入学者選抜及び学生生活説明
- ⑤ 教養部説明
- ⑥ 生体材料工学研究所説明
- ⑦ 難治疾患研究所説明
- ⑧ 各学科・専攻別に各室に分れて説明
- ⑨ 質疑応答
- ⑩ 閉会挨拶

医学科は西岡教授，看護学専攻は島内教授，検査技術学専攻は佐藤（健）教授，歯学科は俣木教授からそれぞれ説明が行われました。

参加者からのアンケートの集計の結果，多数から大変参考になった旨の回答がありました。



鈴木学長の挨拶



5号館講堂を埋めた大勢の受験予定者たち

## 平成13年度入学者選抜

本学の「平成13年度入学者選抜に関する要項」を7月19日(水)に公表しました。

主な内容は、「分離・分割方式(前期・後期日程試験)による一般選抜」及び特別選抜である「推薦選抜(医学部保健衛生学科看護学専攻のみ実施)」、「私費外国人留学生特別選抜」の試験に関する概略をまとめたものです。

今後入学試験については、全教職員の御協力のもとに実施していくこととなりますのでこの紙面をお借りしてご協力方よろしくお願い申し上げます。

大学入試センター試験及び本学の個別学力検査等の実施日程は次のとおりです。

### 1. 各試験の実施日程(実施場所)

#### ① 3年次編入学試験(湯島地区)

出願期間

平成12年8月18日(金)～8月24日(木)

学力試験

平成12年9月25日(月)

面接

平成12年9月26日(火)

#### ② 推薦入学の特別選抜(湯島地区)

出願期間

平成12年11月1日(水)～11月8日(水)

第1次(書類)選考発表

平成12年11月10日(金)

第2次選考(小論文, 面接の実施)

平成12年11月27日(月)

#### ③ 大学入試センター試験(代々木ゼミ)

平成13年1月20日(土)～21日(日)

#### ④ 本学個別・出願期間

平成13年1月29日(月)～2月6日(火)

#### ⑤ 本学個別・前期日程試験

(代々木ゼミ・湯島地区)

平成13年2月25日(日)～27日(火)

#### ⑥ 本学個別・後期日程試験(湯島地区)

平成13年3月12日(月)～13日(火)

#### ⑦ 私費外国人留学生特別選抜

学力検査(代々木ゼミ)

平成13年2月25日(日)

面接(湯島地区)

平成13年3月12日(月)

2. 試験教科・科目等, その他詳細については, 入学主幹付入学試験掛へ照会願います。

## 平成12年度前期外国人留学生オリエンテーションの開催

6月5日(月)5号館3階の第一ゼミナール室において, 昨年10月以降新規に入学した外国人留学生に対しオリエンテーションが行われ, まだ渡日していない2名の留学生を除き15名が参加し, 懇親会では学長と医学部長の挨拶があり, 指導教官やチューターも参加しました。

海野学生部長と板橋留学生センター長の挨拶の後, 保健管理センターの谷合所長から健康管理と日本での生活についての話, 山下教授の日本語教室と日本での生活をビデオにより紹介し, 事務から諸手続き関係の説明と, 本学の概要をビデオにより紹介があり, 引き続き歯学部附属病院・医学部附属病院の見学の後, 懇親会が行われました。

学生部では, 留学生が日本での生活に

一日も早く溶け込み, 学内環境にスムーズに適応し勉学・研究等, 留学生生活の充実が図れるよう年2回(5月と10月)新規に入学した留学生に対するオリエンテーションを行っています。



## 妙高高原赤倉寮の冬季利用について

### 1. 利用の申し込み

妙高高原赤倉寮の使用は、原則として使用日の1か月前から受付け、7日前に締め切りますが、下記の期間は特に混雑しますので、予約申込みの人数が定員を上回る場合は、抽選により予約順位を決定します。

なお、抽選取扱期間でも抽選日の翌日以降、空室があれば通常の手続で受付します。

### 2. 予約利用期間

予 約 抽 選 該 当 期 間	申込み締切日	抽 選 日 時
12.12.23(土)～13.1.8(月)	12.11.28(火)	12.12.1(金)12:00

### 3. 利用にあたって

できる限り多くの方に利用していただくため、宿泊数は、教職員・学生共に3泊4日以内とし、申込み人数は、最大15名程度、2部屋までとします。

食事の利用は、スキーシーズン中全期間にわたり、利用開始日の夕食から、利用終了日の朝食までとします。

車で行かれる場合、危険防止のため寮駐車場の利用ができないことがあります。赤倉駐車場(町営1泊500円)の利用を予定してください。

### 4. 申込み場所

学生部厚生課厚生保健掛(教養部厚生掛でも可)

### 5. 抽選について

抽選場所 学生部厚生課(1号館1階)

抽選を行う場合は、抽選日の前日までに連絡しますので、抽選には必ず参加願います。

(都合の悪い場合は、代理でも可)

### 6. その他

1. 使用は本学関係者に限ります。

2. 赤倉寮への夜半・早朝の到着は他の迷惑となるので受付できません。

学生部厚生課

## 課外活動における事故防止

学生諸君の課外活動は、各自の責任と自主的な判断のもとに、原則として学生自らの負担において行われるものですが、関係行事の実施及び計画の立案に当たっては、日頃の練習活動のほか、使用する施設や気象条件等を十分に調べて安全の確保に務めるなど、危険防止に万全を期してください。また、次の留意事項を必ず守ってください。

### ◇留意事項◇

#### 1. 行事の実実施計画及び届出等について

事前に顧問教官に届け出るとともに、合宿届又は遠征届を学生課学生掛へ提出すること。

特に「山岳部」と「ワンダーフォーゲル部」については、合宿の詳細な行程、装備内容、緊急連絡先等を記した『山行計画書』を併せて提出すること。

#### 2. 健康診断の実施

大学で毎年実施する健康診断は、必ず受診すること。

体力の消耗が激しいスポーツ大会・行事等への参加に当たっては、学生課学生掛を通じて、保健管理センターにおける健康相談を申し出ること。

#### 3. 緊急対策

必要に応じ、警察署（交番）、消防署、役場等への届出を行うこと。

また、緊急時における連絡先を、顧問教官、学生課、関係OB宅、部員宅等へ明確に伝えておくこと。

#### 4. 交通事故の防止

行事（大会）への参加に際し、自動車等の使用が増えているため、ゆとりのある計画を立てるとともに、交通規則を守り、事故の防止に努めること。

#### 5. スポーツ安全保険等への加入

サークル部員が安心して活動するためにも、スポーツ安全保険等に加入すること。

#### 6. 講習会等への積極的参加

学内、学外での各種安全講習会等に積極的に参加し、専門的な知識・技術を修得すること。

#### 7. 事故が発生した場合の対応

万一事故が発生した場合には、人命救助を第一に適切な対応をするとともに顧問教官、学生課等へ連絡し、必要な指導を受けること。

なお、帰学後、速やかに「事故報告書」を学生課学生掛へ提出すること。

## 交通事故の防止

学生による交通事故が毎年のように発生しています。

交通事故は、被害者になっても、加害者になっても、痛ましい結果を生みます。

「危険」は、いつも皆さんのすぐ隣にあります。

交通ルールを守ることはもとより、安全運転には十分注意してください。

特に、自動二輪車の運転には注意してください。

### 《交通ルールとマナーの実践》

1. 安全速度を必ず守る。
  2. カーブの手前ではスピードを落とす。
  3. 交差点では必ず安全を確かめる。
  4. 一時停止で横断歩行者の安全を守る。
  5. 飲酒運転は絶対にしないこと。
  6. シートベルトを締める。
- 以上の「安全六原則」を守ろう。

## 第49回お茶の水祭，開催！！



この度第49回お茶の水祭実行委員長を務めさせていただきます，平井と申します。2000年度を迎えた今年，49回を迎えたお茶の水祭は10月21（土），22（日）の二日間開催されることとなりましたのでご報告いたします。併せて，委員会役員が次のように決定しましたので記させていただきます。

お茶の水祭は，本学の関係者の皆様に大きな支えを受けてこれまで成功を重ねることができました。深く御礼申し上げます。今年度も，皆様のご指導とご厚意を承りたくお願い申し上げます。

さて，今年度のお茶の水祭テーマは『*Fusion!* ~医か歯た奴ら~』となりました。21世紀に向けて，大学院医歯学総合研究科設置の本学の大きな流れを受けて，お茶の水祭も伝統と斬新の融合を掲げて，準備を重ねております。医学教育をテーマにした講演会，本学教官による公開模擬授業，本学学生による解剖展，寄生虫展，また，中夜祭，後夜祭，チャリティバザーなど充実した企画を用意しております。

本学の関係者の皆様も是非お茶の水祭に足を運んで頂き，私たちの成果を共に分かち合っていたきたいと考えております。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

## 第49回お茶の水祭実行委員会役員

実行委員長	片桐 洋樹 (M4)
平井 高志 (M4)	田村 宣子 (M4)
副委員長	本部企画
小野 法明 (D4)	竹下 英毅 (M4)
会計	柴田 幸 (M4)
秦野 雄 (M4)	広田 理子 (M4)
会場	小田 敏子 (M4)
風間 裕貴 (D4)	武川 麻紀 (M4)
資材	関中 智子 (M4)
新井 薫 (M4)	大井手志保 (M4)
峯野 誠司 (D4)	今田 信哉 (M4)
食材	若林 麻衣 (M4)
遠藤 晴久 (M4)	木本 奈央 (M4)
渉外	清水 寛路 (M3)
土田 直輝 (M4)	多川 理沙 (M4)
山南 文香 (M4)	梶川 優介 (M4)
講演会	赤座 至 (M4)
瀬戸口雅彦 (M4)	平田悠一郎 (M4)
公開模擬	篠岡 太郎 (M4)
稲垣 桂 (M4)	戸田 重夫 (M4)
満生 紀子 (M4)	中夜祭
安西 実穂 (M4)	山内 慎一 (M4)
対外交流	芳村 雅隆 (M4)
中島 啓介 (M4)	後夜祭
藤森 喜毅 (M4)	藤田 鉦一 (D4)
バザー	郡司 知彦 (D4)
上野真紀子 (M4)	青山なつみ (D4)
貴志絵梨子 (M4)	美術
広報	藤川 太郎 (M4)
高橋 武彦 (M4)	武藤 仁志 (M3)
田尾 進 (M4)	ポスター
高澤 啓 (M4)	挟間 智子 (M4)
パンフレット	長崎 弘和 (M4)
富沢 路子 (M4)	

## 2000年 お茶の水祭 講演会

今年は2人の先生に来て頂くことになりました。テーマは「医学教育」です。

世間では、医学教育についていろいろと多方面から問題点が指摘されています。学生である間に医学教育を考えておくことは決して無駄ではないと思うし、これから医学部へ行こうと考えている高校生にとっても、「医学部教育を受ける上で何が求められているのか」がわかり、大変有意義であると思われる。

赤津先生はアメリカで正規の医学教育を受けられたドクターです。すべてアメリカ式が良い、というわけではないけれど、日本がアメリカから学ぶべきことは多いと思います。赤津先生のお話は、アメリカの医学教育について分かりやすくお話して下さることと思います。また、アメリカでの臨床研修についてもお話ししていただく予定です。将来、アメリカで臨床研修を考えておられる方には、大変貴重なお話が聞けることと思います。

黒川先生は、日本、アメリカ両国で医学部教授として教鞭をとられ、日本とアメリカ両方の医学生についてよく御存じの方です。医学教育改革に非常に熱心な方で、立派に通用する医者になるためにはどうすればよいのか、話して下さるでしょう。なお、医学教育関連で是非講演の中で触れて欲しいことがございましたら、お茶祭部屋（5号館3階）のポストか、seto-tmd@umin.ac.jpまでお知らせ下さい。

### I. 講演会日程

2000年10月22日午後1時 5号館4階講堂

### II. テーマ

卒前、卒後の医学教育 / アメリカでの臨床研修

### III. 講師

#### 赤津晴子 先生

スタンフォード大学老年病学研究所海外研究員。聖心女子大学、上智大学大学院を経て、米国ブラウン大学医学部大学院修了。著書「アメリカの医学教育 - アイビーリーグ医学部日記」、  
「続アメリカの医学教育 - スタンフォード大学病院レジデント日記」

#### 黒川 清 先生

東海大学医学部長。東京大学名誉教授。1936年（昭和11年）東京生まれ。東京大学医学部卒、東京大学大学院医学研究科修了。UCLA 校医学部内科教授、ワズワース・ベテラン・アドミニストレーション・メディカルセンター内科腎臓科長、東京大学医学部附属病院分院助教授を経て、1989年より東京大学医学部第一内科教授、96年より東海大学医学部教授、現在に至る。

### IV. 当日の予定

赤津先生、黒川先生による講演会。その後できれば、他大学の医学生を交えたパネルディスカッション等を企画。

(M4 講演会担当 せとくまきひこ 瀬戸口雅彦)

## お茶の水祭公開模擬授業

精鋭を誇る東京医科歯科大学教授陣から、今年も選りすぐりの3人の教授の公開模擬授業をお送り致します。それぞれの分野における身近な話題を、最先端の視点からわかりやすく紐解きます。

伊藤 洋子 教授 ~ 国際健康開発学講座司法医学分野 ~  
「みんなの法医学」

藤田 紘一郎 教授 ~ 国際健康開発学講座国際環境寄生虫病学分野 ~  
「ヒトと寄生虫のいい関係 花粉症からダイエットまで」

天笠 光雄 教授 ~ 顎顔面機能修復学講座顎顔面外科学 ~  
「口腔癌と口腔の機能」

日時、場所などにつきましては、学内掲示板またはインターネットホームページをご覧ください。

### 問い合わせ先

当日の講義の座席には限りがあるため、事前の申し込みをお勧めします。

申し込み方法は、学内のポスターをご覧ください。5号館3階

お茶の水祭実行委員会までお問い合わせください。

第49回お茶の水祭実行委員会 03(3813)0173

公開模擬授業担当 稲垣 桂 (M4)

みづ 生 紀 子 (M4)

## お茶の水祭 チャリティーバザーのお知らせ

お茶祭恒例のチャリティーバザーも、今年で8年目を迎えました。

今年は訓音院に  
チャリティーバザーの売上金を  
役立てる予定です。



昨年はかもめ工房へ  
マッサージ機を寄贈  
昨年は多くの方々にその主旨を理解して頂き、収益金は30万円弱に  
のぼり、かもめ工房にマッ  
サージ機を寄贈しました。  
皆様のご協力に対し、心  
から感謝いたします。



「訓音院」は、目の見えない子供たちの学校施設であり、人間科学実習の受け入れ先として教養部の学生がお世話になっています。

### 現在バザーに出店する 品物を募集中です

生もの以外なら何でも受け付けます！

古 着（あらかじめ洗濯をお願いします）

スー ツ（ハンガーにかけて頂けると助かります）

#### 連絡方法

直接持参する場合.....お茶の水祭本部または学友会室（5号館3階）

取りに来てもらう場合...お近くのお茶祭委員、実行委員にお申し付け下さい。

又は、学友会室（内線7063）にご連絡下さい。

学園祭当日まで受け付けます！

### 今年も一層のご協力をお願いします

チャリティーバザー担当 うえの まきこ 上野真紀子（M4） あんざい みほ 安西 実穂（M4）  
きし えりこ 貴志絵梨子（M4）

## みんなこいこい 後夜祭

後夜祭担当 おの のりあき 小野 法明（D4）  
ふじた こういち 藤田 紘一（D4）

終わりよければすべてよし！ただ酒にありつけるのもこの機会だけ...おっと、今年は生ビール導入か？

花火に飽きた秋の祭りの宴は、開放感にみちあふれてえもいわれぬ満足感に浸れることまちがいなし。みんなどしどしくることまちがいなし。だから君もくることまちがいなし。

## サークル紹介

## 【山岳部】



「山岳部」と聞いてどんなイメージを持ちますか？  
山の中を歩いて気持ちよさそう。一度山の頂上で「ヤッホー」と叫びたい。健康によさそう。また逆に山は危険、怖い、寒い、疲れるというようなマイナスのイメージもあるかもしれません。

ここでいっておきたいのは危険度について。活動は知識や技術や経験を持っている先輩と一緒にし、自分たちには無理だと思ふことは決してしません。安全で楽しい山登りやクライミングをしたいと考えています。

活動内容は日帰りのハイキングや一泊二日の合宿から夏の北アルプスや南アルプスの縦走、ロッククライミング、冬には雪山合宿などとても幅広いものとなっており、自分のペースに合わせて参加できます。ただし、活動は平日は無く、週末や長期の休みを利用することが多くなります。

部員は現在男性七名女性五名計十二名。あまり多くはありませんがその分信頼関係は深く、大家族といった雰囲気です。OBやOGの方も時々活動に参加してくれるので楽しいお話が聞けます。

今までに山登り、岩登り、キャンプをしたことがある人、まったく経験のない人でも、私達の部に興味を持った人は五号館三階の山岳部の部室に遊びに来てください。きっと大学生活が楽しいものとなりますよ。

(M2 おおたに 大谷 ゆうすけ 悠祐)  
(N4 ますだ 増田 あゆみ あゆみ)

## 【スキューバダイビング部】

「海から誕生した人間は、誰もが人類創世の記憶である“海の切れ端”を体内に持っている」

U.ペリッツァーリ

今や人類は陸上はもちろんの事、飛行機に乗れば誰もが空中をも自由に移動することができるようになりました。

しかし、この地球上に残された環境“海中”を誰もが自由に進むということはできるようになっていません。

そこでスキューバダイビングによって“母なる海”の中を一緒に散歩してみませんか？

海の中は一度潜ってみないとわからないと思います。



でも多くの驚き、感動が必ず待っています。

私達スキューバダイビング部は伊豆等での月1回のダイビングの他、夏には八丈島や三宅島への合宿、そして春には海外でのダイビングなども企画して手軽にダイビングを楽しんでいます。

部員は約30名で、海・ダイビングが大好きなものばかりです。部員全員が“楽しく、安全に”をモットーに潜っています。

少しでも興味を持った方は連絡してください。

海の中を一緒に散歩しましょう！

(D4 かみやま 神山 ゆうすけ 洋介)  
(D2 かたおか 片岡 いづみ いづみ)

## 国際学生交流会 (SSIA)

SSIA は1995年に同好会として発足した後、部に昇格し現在まで至っています。東京医科歯科大学は他の医療系大学に例を見ず世界各国からの多くの留学生を擁していますが、SSIA の発足には学生がこのような環境において留学生と交流し、双方の学生生活を刺激しあう場を設けたいという背景がありました。以来、外国の文化を知りたい、英語を使えるようになりたい、外国人の友人を作りたいという人から、将来国際舞台で活躍したいという人まで様々な個性を持った学生が集まり、様々な経験をし旅立って行きました。



現在では週一回の meeting を中心に、外国大学との短期交換留学、学生国際会議への参加、英語による学生の研究発表などの活動を展開しています。weekly とよばれる meeting ではテーマを決めて英語によるディスカッションを行い、英語力の向上をはかります。また学生国際会議ではアジア各国の医療系大学生が年に一度担当国に集まり、生活を共にすることによって直に文化交流を体験することができます。他にも部員どうしてパーティーを開いたりピクニックに出かけたりして学生生活を充実したものにしています。

活動の枠が広がり、部員の個性も多様化するにつれて SSIA に求められることも様々になりましたが、SSIA はこのような人たちにその目的を達成するための「第一歩」となる機会を提供するという基本的な立場をとっています。それ故に、機会を与えられた個々の部員は「一度やると決めたことは責任を持って楽しむ」というモットーの下、それぞれの目的に応じて活動しています。

(M5 うえざと あきひと 上里 彰仁)

## コンピューター部

こんにちわ、コンピューター部です。わがコンピューター部では今期よりようやく Windows マシンを導入し、ようやくまともなコンピューターを手に入れたわけですが、予算不足のため一台きりで性能も2年以上前のもの程度となっています。だから、「俺はコンピューター詳しいぜえー!!」なんて人はあまり向かないのかなあ?むしろ、「コンピューターいじったことないっす。でもいまだきコンピューターも使えないなんてシャレになんないから教えて欲しいっす。」なんていう初心者の方は大歓迎です。まあ、入部しなくてもよいから「コンピューター買おうと思ってるけど何買えば良いんだろう?」なんて時は気軽に部室に来て声をかけて下さいな、まじで。

部室：5号館(入学式の建物)5階の部室群の中の廊下左側奥から2番目。

(MT4 まるた きょういち 丸田 恭一)

# ペットからかかる 寄生虫病

## インタビュー

谷合 哲 (保健管理センター所長)

近年日本の国では、あまりに清潔について潔癖であり過ぎて、アレルギーや免疫に異常を起こすものが多くなったり、環境破壊を起こしたりしているようです。一方、身の回りにもいろいろな寄生虫がいるといわれています。そこで、今回は寄生虫学がご専門で、テレビやラジオでもご活躍の、国際環境寄生虫学分野の教授である藤田 紘一郎先生に、身近な寄生虫で問題となるものについて伺いました。



藤田 紘一郎 教授  
大学院医歯学総合研究科  
国際環境寄生虫学分野

# 健康コラム



このコーナーを担当  
していただく  
保健管理センター所長  
谷合 哲 教授

れず、いつまでも幼虫のままヒトの体内を移行します。ですから、まず診断が難しいということです。次に症状が多彩で軽い場合も重篤な場合もあるということです。そして、治療もなかなか簡単ではないということです。このような病気を幼虫移行症とよび、幼虫の移行部位に応じて、皮膚幼虫移行症と内蔵幼虫移行症とに分類されています。

イヌやネコの回虫卵がヒトに経口的に摂取されておこるイヌ・ネコ回虫症が最も多いペット感染症です。日本人のほぼ3%がかかっていると考えられます。ただし、その大部分が症状が現れない、いわゆる不顕性感染です。しかし、時には肝炎を起こしたり、網膜に肉芽腫をつくって視力障害をきたしたりします。

イヌやネコと一緒に寝たり、口移して餌をあげたり、ペットと過度な接触はなるべくやめるようにしましょう。ペットと接触したら手洗いをするように習慣づけましょう。そして、イヌやネコなどを清潔に保つよう、日頃から注意することが必要です。

表1：ペットからうつる主な病気

病名	動物	感染方法	ヒトでの症状
ネコひっかき病	ネコ	ひっかき傷、咬傷 ノミによる刺傷	発熱、リンパ節の腫れ 髄膜炎、脳症
バスタレラ症	ネコ、イヌ	ひっかき傷、咬傷 空気感染、えさの口移し	傷口、リンパ節の腫れ 骨髄炎、髄膜炎、敗血症
トキソプラズマ症	ネコ	糞で汚れた砂などから虫卵を経口で。体毛に付着した虫卵をゴミと共に経口で感染	流産、死産、リンパ腺炎 網脈絡膜炎
イヌ・ネコ回虫症	イヌ・ネコ		肝腫脹、発熱、視力低下 飛蚊症、網膜芽細胞腫
イヌ糸状虫症	イヌ	蚊の刺傷	肺に銭形陰影
皮膚糸状菌症	イヌ・ネコ	直接の接触	発疹、皮膚炎
レプトスピラ症	イヌ・ネズミ	尿で汚染された下水や泥 四肢の傷口から経皮感染	発熱、全身倦怠感、筋肉痛、黄疸、出血、腎障害
エルシニア症	イヌ・ネコ ネズミ	排泄物の汚染物から経口感染	食中毒、胃腸炎
カンピロバクター症	イヌ・ネコ 小鳥		
オウム病	インコ、文鳥 などの小鳥	乾燥した糞の吸入 えさの口移し	発熱、せき 急性肺炎
クリプトコッカス症	ハト、小鳥	乾燥した糞の吸入	髄膜炎 肺炎
サルモネラ症	爬虫類 イヌ・ネコ	排泄物の汚染物から経口感染	下痢、食中毒
アメーバ赤痢	爬虫類 サル		血便、肝膿瘍

最近、ペットからかかる寄生虫病が増えてきました。日本人の少子化や核家族化の影響で、ペットブームが起きているからです。イヌやネコなどのペットに加えて、ハムスターやイグアナなど今までペットとして飼ったことがなかった動物まで、日本人は飼うようになったからです。したがって、ペットからかかる寄生虫病も症例の数だけでなく、その種類も多彩になってきました。

WHOはペットからかかる、いわゆる人畜共通感染症として、122疾患をあげています。そのうち小動物からかかる病気は50種、日本国内では約30種、このうち寄生虫によるものは60%、約20種が知られていますが、稀な病気を加えればまだまだあります。

ペットからかかる寄生虫病は大変やっかいな病気です。なぜなら、動物の寄生虫がヒトに感染するわけですから、ヒトの体内では親虫にな

## 行事案内

(集会名等：日時/講師名(所属)/演題等/場所/連絡先)

平成12年度東京医科歯科大学

公開講座

# 「健康を守る(I)」 健康と生活習慣病

## プログラム

第1回 10月4日(水) 18:00-19:40	<b>アレルギー性呼吸器疾患</b> 大学院医歯学総合研究科老年病総合臨床医学分野 : 吉澤 靖之 教授	第5回 11月8日(水) 18:00-19:40	<b>歯周病について</b> 大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 : 石川 烈 教授
第2回 10月11日(水) 18:00-19:40	<b>入れ歯で快適な生活を</b> 大学院医歯学総合研究科摂食機能評価学分野 : 早川 巖 助教授	第6回 11月15日(水) 18:00-19:40	<b>生活習慣病</b> 大学院医歯学総合研究科血流制御内科学分野 : 下門 顕太郎 教授
第3回 10月18日(水) 18:00-19:40	<b>健康診断と健康管理</b> 大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 : 奈良 信雄 教授	<b>場 所</b> : 東京医科歯科大学 歯学部特別講堂(歯科外来事務棟4階) <b>募集人員</b> : 100人(応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。) <b>応募方法</b> : 官製はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、「健康を守る(I)」受講希望と記載して下記宛お申し込みください。 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科歯科大学 庶務部研究協力課研究協力第二掛 Tel 03-5803-5872 (ダイヤルイン) 受講者決定後、受講料お支払いの案内をお送りします。	
第4回 11月1日(水) 18:00-19:40	<b>ぼけの予防と対応</b> 医学部保健衛生学科看護学専攻 : 高崎 絹子 教授	<b>締 切 日</b> : 平成12年9月20日(水)消印有効 <b>受 講 料</b> : 6,500円(全6回分) 郵便為替、現金書留、または現金持参にてお支払い願います。 <b>そ の 他</b> : 受講者には、開講日初日に領収書、受講証及びテキストをお渡しします。全6回のうち、4回以上受講の方には修了証を授与します。	

## 行事案内・掲示板 原稿募集

原稿や写真(表紙含む。主に本学を題材にしたもの。)を募集しています。

行事案内・掲示板の欄は職員、学生、皆さんのページです。研究会、講演会、セミナー、特別講義、サークルの行事などの開催案内、その他にご利用下さい。なお、本欄掲載事項に関する照会等への対応は、利用者の責任において行って下さい。

行事案内は、集会名等：日時/講師(所属)/演題等/場所/連絡先(所属・氏名・電話内線番号等)の要領で、その他の掲示板は原則として100字程度でお願いします。

原稿は広報委員あるいは庶務課1号館2階 内線5008、Eメール hiroba@tmd.ac.jp (Information, Topicsを明記)までお願いします。

発行予定日は3, 6, 9, 12月です。該当月の1ヶ月前までにお届け下さい。

## 広報委員会委員

一條秀憲(歯学部)  
海野雅浩(学生部長)  
大谷啓一(歯学部)  
岡部繁男(医学部)  
渡橋正博(事務局長)  
沢登 徹(難治疾患研究所:委員長)  
松岡 恵(医学部)  
水野哲也(教養部)  
宮入裕夫(生体材料工学研究所)  
事務担当 庶務部庶務課

## 医歯大ひろば No 80

編集 東京医科歯科大学広報委員会  
発行 東京医科歯科大学庶務部庶務課  
〒113 8510  
東京都文京区湯島 1 5 45  
Tel 03(5803)5008  
Fax 03(5803)0100

本学ホームページアドレス <http://www.tmd.ac.jp>  
広報委員会、医歯大ひろばに関する投稿、ご意見、  
セミナー等開催のご案内は  
メールアドレス hiroba@tmd.ac.jp



本紙は再生紙を使用しています。

## 国府台散策

教養部キャンパスから江戸川を遡ると、「<sup>さかのぼ</sup>矢切の渡し<sup>やぎり</sup>」があります。対岸は、映画「男はつらいよ」でおなじみの<sup>かつしかしばまた</sup>葛飾柴又です。



古くからの店が立ち並ぶ柴又帝釈天の参道



柴又の堤防から眺める江戸川河岸と矢切の渡し



柴又側に渡し舟がゆっくり近づいて来ます



降りる人と乗る人が狭い栈橋にすれ違います



片道5分、100円の舟旅はとても涼しい



松戸側の栈橋から堤防へと続く小道です

写真は今年8月、柴又帝釈天から松戸側の岸までの短い舟旅の様子をつづってみました。

(構成・写真/教養部 日置 俊次)